

## 福島大学災害ボランティアセンター18の柱…その1

## ①被災地現場での復興支援活動

・新地町、相馬市、南相馬市、いわき市などのボランティアセンターを通じたニーズ対応活動



## ②避難指示解除準備区域での復興支援活動

・南相馬市小高区での二一ス対応活動

## ・川内村でのサポート



### ③津波・原発事故被害地への支援活動

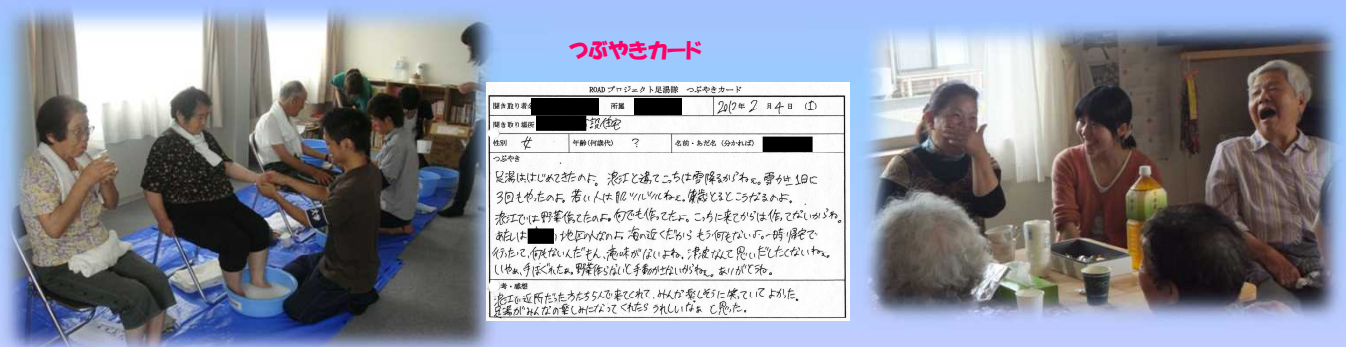
## ・飯舘村、川俣町への支援

・双葉8町村支援イベントの要請対応



#### ④仮設住宅・民間借り上げ住宅居住者との生活支援活動

・高齢者等の訪問活動 ・仮設住宅での足湯活動 ・交流スペースを使った住民交流活動(サロン含む)



# 「福島大学うつくしまふくしま未来支援センター」設置

## 【現状と課題】

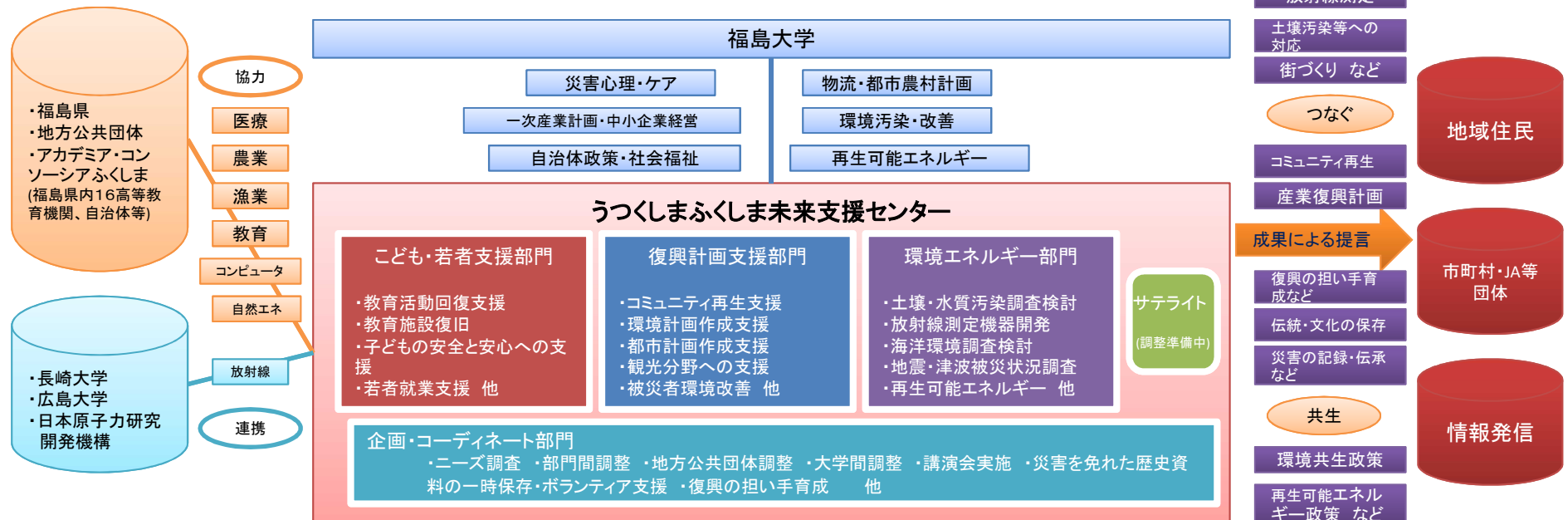


平成23年3月11日～



いわき市 塩屋崎灯台  
(この地域は津波により被害を受けた)

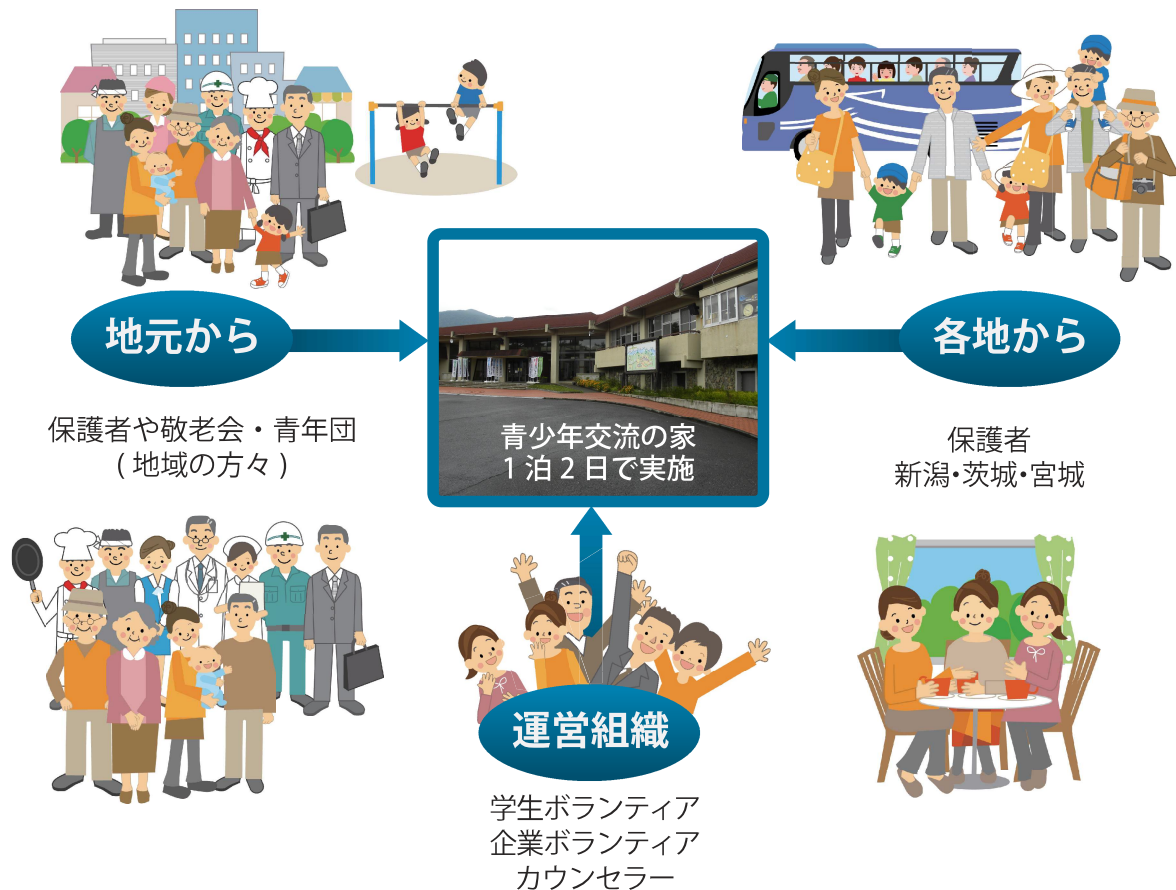
## 【概念図】





# 『郷土に想いをよせる 「同窓会」モデル化事業』②

平成24年度はプログラム作りとして、双葉郡川内村及び浪江町津島地区の子ども（小学校5年生から中学2年生）とその保護者を対象に、2期（浪江町津島地区…2012年10月、川内村…2012年11月）に分けて実施。



## 実施の効果

- 安心できる場で安心できる仲間と一緒に過ごすことによって、子どもも保護者も自分らしさを取り戻し、新たな環境においても踏ん張ろうとするエネルギーを得ることができる。
- 郷土の伝統や文化・人とふれあうことによって、郷土に心を寄せることができる。
- 地域の人々とふれあうことによって、郷土に関わる情報交換・共有をすることができる。
- 保護者が会話をすることによって、情報の交換や保護者のストレス軽減を図ることができる。
- 自主的なプログラムの作成や参加を通して、児童生徒の自主性や自己肯定感等を高めることができる。
- 事業をパッケージ化し、各自治体へ提案することにより、他の地域において同様の事業が実施されることが期待できる。